エンジョイ園芸

野菜　スイカ（トンネル栽培）

土壌や作り方で味に差

――鮫島　國親

水分が多いので栄養価が低いと思われがちですが，そうでもありません。カリウム，鉄分，ビタミン類，リコピンなどをバランスよく含み，優れた利尿作用があるといわれています。土壌条件や作り方で食味に差がでるようですが，昔加世田の砂丘試験地で食べたスイカはシャリ感がありとてもおいしかった記憶があります。今回はトンネル早だし栽培を紹介します。

発芽適温は３０度，生育適温は１８－２８度で多日照を好みます。種まき期は１月（暖地）－３月，定植期は３－４月で地温１５度以上が必要です。スイカは土壌病害に弱いので接ぎ木苗をお勧めします。販売されていますが，好みの品種を選び接ぎ木苗作りの楽しみを味わってみてはいかがですか。一般的な接ぎ木方法は挿し継ぎで，穂木となるスイカより台木を先にまきます（ユウガオ台で５日程度）。接ぎ木作業は台木の子葉以外の本葉を除去し，竹べらで軸に斜めの穴を開けて，くさび型にそいだ穂木を差し込んで行います。育苗日数５０日，本葉五枚（摘心六枚）で定植します。本ぽは１平方㍍当たり苦土石灰１００㌘，堆肥２㌔，緩効性の化学肥料７０㌘（三要素１５％の場合）を目安として施します。うね幅３－５㍍，トンネル幅１－２㍍とし，透明ポリをマルチします。株間６０－８０㌢に浅植えし，日中３０度，夜間１５度を目標に管理します。子づるは一方向に３－４本伸ばし，着果節位以下の孫づるは除去します。１㍍くらいのころ，着果位置がトンネル内になるようにつる下げを行います。授粉は昆虫の活動が活発になるまでは，雄花を用いた人工交配が必要です。着果は１５－２０節（下から３番目くらいの雌花）を目標とします。湯飲み茶わん大のころ一株１－２果（小玉種は３果）に摘果します。果実を着けない遊びつるも肥大を助けます。草勢を維持すると２，３番果まで期待できます。成熟日数は大玉種で４５日，小玉種で３５日前後です。開花日別に色分けした棒を立てるなどして適期に収穫しましょう。

（鹿児島県農業開発総合センター副所長）

平成１９年３月８日（木）／南日本新聞